

文化庁に認定されています。日本遺産「百世の安堵」として、記憶を伝える建造物や祭りは、文化的価値が認められています。

広川町は和歌山県の中心に位置し、中央には広川が流れ、南は白馬山脈が東西に走る自然豊かなまちです。安政元年(1854年)の南海地震の際、濱口梧陵が稻むらに火をつけ、津波から逃げる村人を誘導した逸話「稻むらの火」をはじめ、当時の記憶を伝える建造物や祭りは、



広村堤防

安政の津波の後、濱口梧陵が後世の津波から町を守るために築いた堤防で、国の史跡に指定されています。稻むらの火の館で申し込めば、耐久社や濱口梧陵銅像とあわせて、ガイドによる案内付きで見学することができます。

きいちゃん
おすすめ

稻むら最中 広川町の新名物にと箕島高校の生徒が考案しました。「稻むらの火」がパッケージにあしらわれ、中身の餡は稻むらの塩とみかんの2種類の味が楽しめます。

道あかり

町内の新鮮な野菜・果物、ジャムやジュースなどの加工特産品を販売。地元産のしらすなどを使用した料理も提供しています。



お問い合わせは
広川町地域振興課
☎0737-23-7764

くわしくは
WEBサイト→



和歌山県PRキャラクター
きいちゃんの
わかやまさんぽ

広川町

今回は広川町の魅力を
「きいちゃん」が紹介!



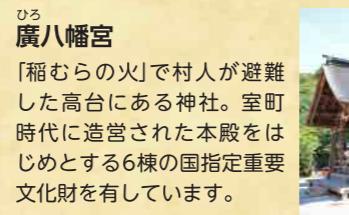
稻むらの火の館

濱口梧陵の偉業と精神、教訓を伝える「濱口梧陵記念館」と、来るべき地震・津波に備え「稻むらの火」や実践的な地震・津波防災を学ぶ「津波防災教育センター」からなる施設です。



西広海岸

遠浅の広大なビーチで、紀伊水道に沈む夕陽は、和歌山県朝日夕陽100選に選ばれています。



ひろ 廣八幡宮

「稻むらの火」で村人が避難した高台にある神社。室町時代に造営された本殿をはじめとする6棟の国指定重要文化財を有しています。



世界津波の日と濱口梧陵

平成27年12月、国連総会において、毎年11月5日は「世界津波の日」と制定されました。この日が「世界津波の日」とされたのは、安政元年(1854年)11月5日、安政南海地震による津波が今の広川町を襲った際、濱口梧陵が稻むらに火をつけ、津波から逃げ遅れた村人を高台へ導いて、多くの命を救った「稻むらの火」の逸話に由来しています。

安政の津波の後、梧陵は、私財を投じて被災者を救護するとともに、後世の津波から町を守るために、堅固な防波堤である広村堤防を築造するなど復興に尽力しました。

梧陵は、明治12年(1879年)5月に和歌山県議会初代議長として選任され、明治14年(1881年)10月に議員を辞職するまで議長を務めました。また、私塾(現在の耐久中学校・耐久高等学校)を開設し、青少年の教育に力を注ぐなど、数々の功績を残しました。

和歌山県議会(県庁北別館)前にある濱口梧陵の銅像



2025年大阪・関西万博 500日前イベント

万博をきっかけに一步踏み出しチャレンジを!

大阪・関西万博は、課題解決に向け、皆さんで創り上げる“参加型万博”です。万博開催まで目前に迫ったタイミングに、万博へのワクワク感や一步踏み出す気持ちが高まるよう、万博テーマ事業プロデューサーの講演や子供たちによるステージパフォーマンスを行います。ぜひ、皆様ご参加ください!

参加
無料

内容(予定)

- 和歌山児童合唱団による合唱
- 基調講演
大阪・関西万博テーマ事業
プロデューサー 中島さち子 氏
- りら創造芸術高等学校による
パフォーマンス など

日時 令和5年11月23日(木・祝)

13:00~15:10 開場 12:30

場所 海南市民交流センター ふれあいホール

海南市下津町下津500-1 ※オンライン同時開催

定員 500人(先着順、オンラインは定員なし)

申込 11月13日までにお申込みください。

申込みはこちら▶



問合せ 2025年国際博覧会和歌山推進協議会事務局 ☎073-422-1111

万博推進課 ☎073-441-2703 FAX073-432-4410